

資料 No.81

大阪社会医療センター附属病院における新型コロナウイルス感染症の記録
続報

2023 年（令和 5 年）度

大阪社会医療センター社会医学研究会

[大阪社会医療センター社会医学研究会]

医 局	工藤新三（副院長兼内科部長）、六車一哉（病院長） 溝川滋一（整形外科部長）
医療福祉相談係	藤野博基（主任）、下村春美（医療福祉相談係長）、片山卓司
看 護 部	本藤千鶴（看護部長）
訪問看護ステーション	習田祐倫子（訪問看護管理者）
臨床検査室	山本浩嗣（保健副主幹）、山田勉、中島正晴
薬剤部	山崎真貴子（薬局長）、竹村文（主任）、高橋宏幸、石田裕依菜
事 務 局	高澤昭彦（事務局次長兼事務長）、塚本伸哉（総務課長）

目 次

要旨	-----	4
1. はじめに	-----	5
2. 方法	-----	7
3. 結果	-----	8
4. 考察	-----	20
5. 結語	-----	22
6. 文献	-----	22

要 旨

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は 2019 年に発症しほぼ全世界に広がるパンデミックとなり 2023 年 5 月にはほぼ終息した。大阪社会医療センター附属病院もこの感染症と 3 年余り取り組んだ。前回の社会医学研究 No. 79（令和 3 年度 2023-4-27）において 2020 年 1 月から 2022 年 3 月 31 日までの期間について報告した。この続報においては 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月末までの期間について調査したものを含め COVID-19 の全期間の結果を報告した。

当院では 2020 年 6 月から COVID-19 のウイルスの核酸同定検査を 37.5℃を超える外来発熱患者について開始し、2021 年 1 月 18 日から入院患者全員に検査を実施した。延べ 2,973 人に検査を行い陽性者は 453 人（15.2%）であった。第 6 波、第 7 波（21 年 12 月～22 年 9 月）の時期が検査数、陽性率共に高値であった。入院受入れは 2021 年 5 月 7 日（第 4 波）より開始し 2023 年 4 月 30 日までに軽症・中等症患者 118 名の患者を受け入れた。平均年齢 65.6 歳で 80 歳代（22.9%）が最も多かった。地域別ではあいりん地域から受け入れが多く 51 人（43.2%）となり西成区全体で 83 人（61.8%）であった。ガイドラインに沿った標準的治療を行い軽快 111 人（94.1%）、転院 2 人、死亡 5 人であった。

2021 年 4 月からワクチン接種を開始し 2023 年 4 月までに 5,460 件の接種を行った。接種者の分類では当院診療中患者が 3,340 件（61.2%）と最も多く、シェルター（あいりん臨時夜間緊急避難所）利用者（312 件、5.7%）及びホームレス（298 件、5.5%）に対しても接種を行った。

当院職員（総員 136 人）の COVID-19 感染は延べ 49 人（医師 6 人、看護師 26 人、薬剤師 5 人、検査技師 2 人、その他 10 人）になった。また、濃厚接触者は 30 人（医師 2 人、看護師 17 人、薬剤師 2 人、検査技師 3 人、その他 6 人）で、両者共に第 7 波、8 波に多かった。このような COVID-19 感染による延べ欠勤日数は合計 507 日、濃厚接触による欠勤日数は合計 213 日になった。院内感染は 2 回起こり、第 1 回目は 2022 年 3 月に 3 名の患者に発症した。第 2 回目 2022 年 12 月起こり患者 4 名と看護師に 3 名の発症しクラスターとなった。

あいりん地域は結核の高蔓延地域であり、その感染対策を行う中で看護部や臨床検査室を中心に病院全体がチーム医療として熱心に感染対策に取り組み修練を重ねてきた。このような取り組みの継続が職員一人一人の感染対策への高い意識を養うことに繋がり、COVID-19 の患者への対応を確実にいき、また、院内感染を最小限に抑えることができ病院の外来、入院機能を継続できた。一方、この間の当院の入院患者数は 118 人になったが、十分な受入状態とは言えなかった。受け入れ態勢の不十分さの一番の原因は人員、特に看護師不足であった。将来の感染症に備え一層の体制整備が必要であると考えられた。

1.はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は 2019 年に中国湖北省武漢に於いて発症し、ほぼ全世界に広がるパンデミックとなった。その間、全世界で 7 億 6 千 9 百万人が感染し、695 万人が死亡した¹⁾。我が国においては 3380 万人の感染者数と 7 万 4 千 7 百人の死亡者がでた²⁾。2023 年 5 月 5 日に WHO は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言を終了すると発表した。我が国においても 2023 年 5 月 8 日にはこれまでの「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」から「5 類感染症」になった。感染者数はいまだに微増であるが一旦 COVID-19 は落ち着いたと考えられる。図 1，2 に 2023 年 5 月 8 日までの日本国内及び大阪府における感染者数と死亡者数の推移^{2, 3)}を示した。

COVID-19 の大阪社会医療センターの取り組みについては社会医学研究 No. 79（令和 3 年度 2023-4-27）⁴⁾において 2020 年 1 月から 2022 年 3 月 31 日までの期間について報告した。今回、社会医学研究 No. 79 以降、即ち 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 30 日までの当センターでの COVID-19 への取り組みの結果を追加し、2020 年 1 月から 2023 年 4 月 30 日までの全体の結果を続報として報告する。また、前報では十分に報告できなかった COVID-19 のワクチン接種及び病院職員の感染者、濃厚接触者についても報告を行う。

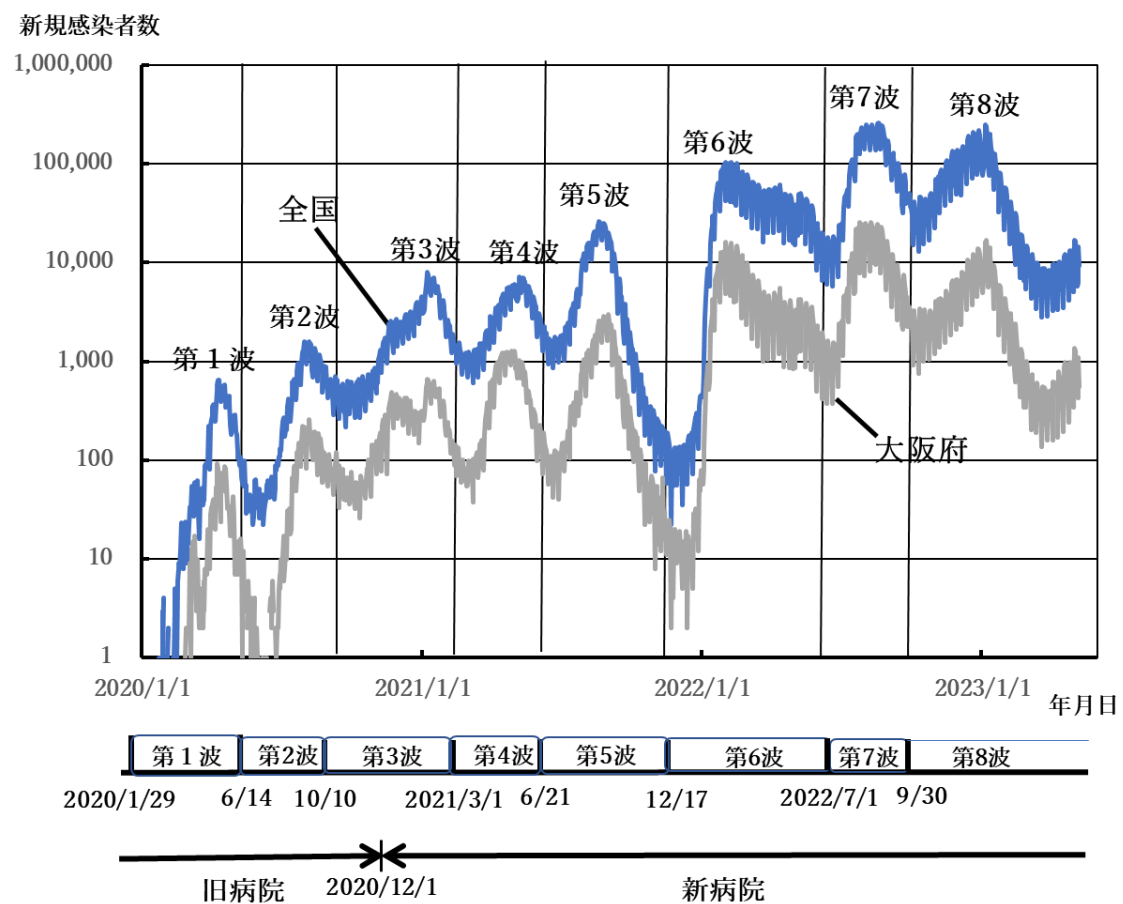


図 1 日本国内及び大阪府の新型コロナウイルス感染者数の推移^{2、3)} 及び感染各波の表示

(2020 年 1 月～2023 年 5 月 8 日)

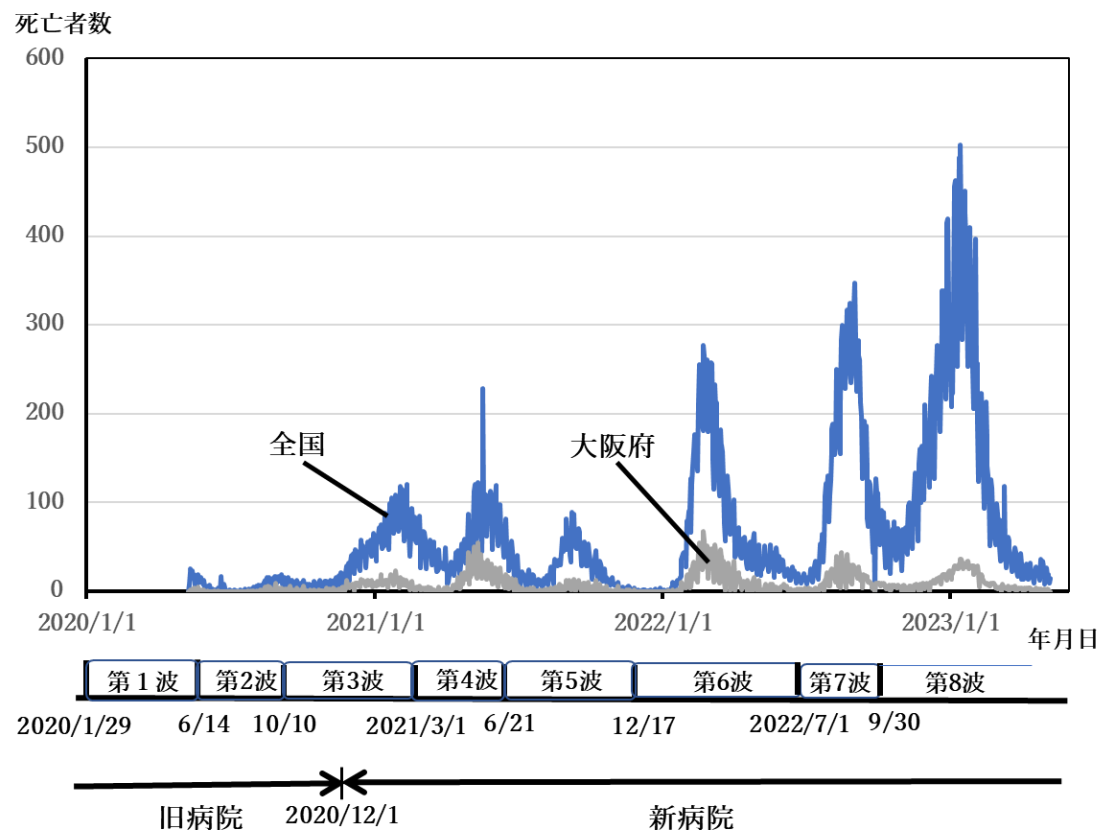


図 2 日本国内及び大阪府の新型コロナウイルス感染による死亡者数の推移^{2、3)} (2020 年 1 月～2023 年 5 月 8 日)

2. 方法

前報⁴⁾ に続いて 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 30 日迄の COVID-19 に対する外来での検査及び患者対応、入院患者の背景、治療内容 などについて追加調査した。

3. 結果

3-1. 検査件数

受診時の問診や検温により発熱 (37.5℃以上) や咽頭痛があり COVID-19 疑いと判断された患者に対しては、医師の診察後、SARS-CoV-2 の検査を実施した⁴⁾。また、一般の

入院患者に対しては、2021 年 1 月 18 日より 2023 年 4 月 30 日まで入院前に全例検査を実施した。月別検査件数・陽性者数・陽性率は、図 3・表 1 のような推移であった。特に第 6 波において検査件数、陽性率が共に高値を示した。即ち、2022 年 2 月の検査件数は 177 件、陽性件数 105 件（陽性率 59.3%）、3 月の検査件数は 252 件、陽性件数 29 件（陽性率 11.5%）であった。全調査期間中では延べ 2,973 人に検査を行い陽性者、即ち新規感染者は 453 人（15.2%）であった。

院内で検査を行った陽性者 379 人の背景を表 2、図 4 に示した。上記報告の陽性者 453 人は院内検査に加えて院外外注検査陽性者を加えたものである。年齢平均値は 54.7 歳、中央値は 55.6 歳で範囲は 3 歳～91 歳であった（表 2、図 4）。60 歳代が 85 人（22.4%）と最も多く、以下 50 歳代（21.9%）、70 歳代（15.0%）が多かった。

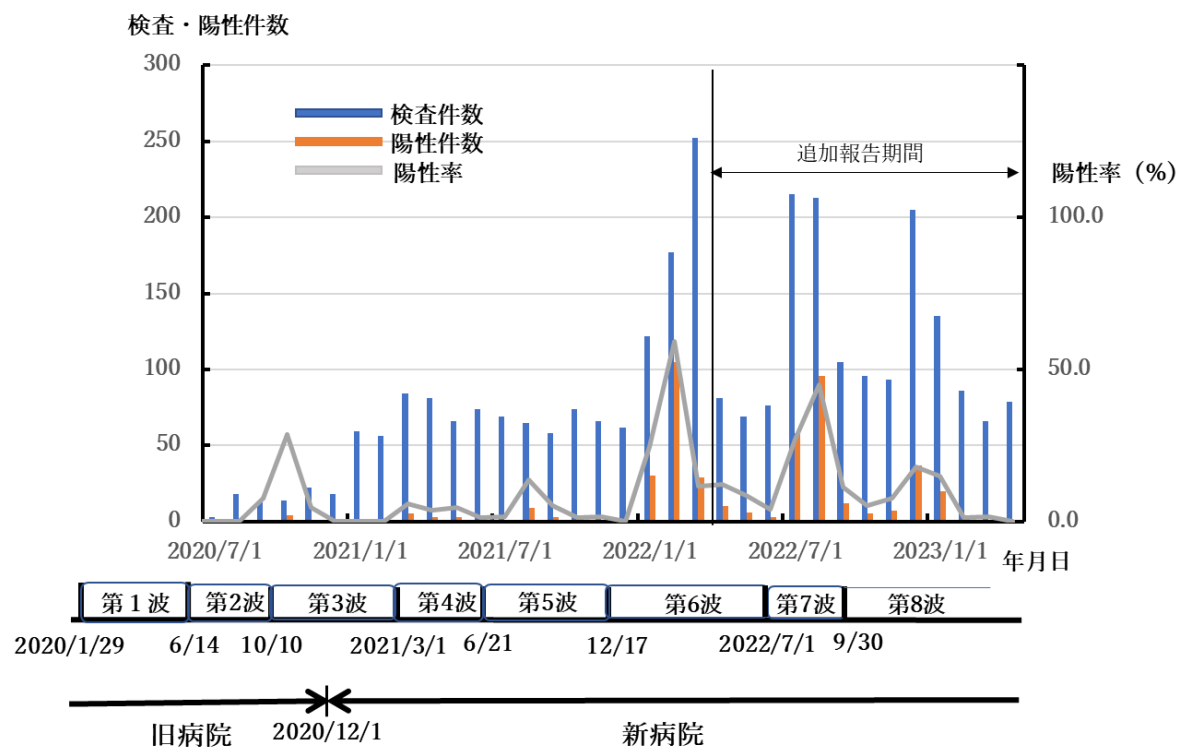


図 3 月別検査件数、陽性件数及び陽性率の推移

表 1 年別検査件数、陽性件数及び陽性率の推移

	2020年 6月～	2021年	2022年	2023年 ～4月	合計
検査件数	89	814	1704	366	2973
陽性件数	6	27	398	22	453
陽性率(%)	6.7	3.3	23.4	6.0	15.2

表2 検査陽性者（院内検査のみ）背景

		陽性者数	割合（％）		
患者総数		379			
性別	男性/女性	318/61	83.9/16.1		
年齢	20歳未満	5	1.3	平均値：	54.7歳
	20歳代	41	10.8		
	30歳代	32	8.4	中央値：	55.6歳
	40歳代	53	14.0		(3歳～91歳)
	50歳代	83	21.9		
	60歳代	85	22.4		
	70歳代	57	15.0		
	80歳代	21	5.5		
	90歳以上	2	0.5		

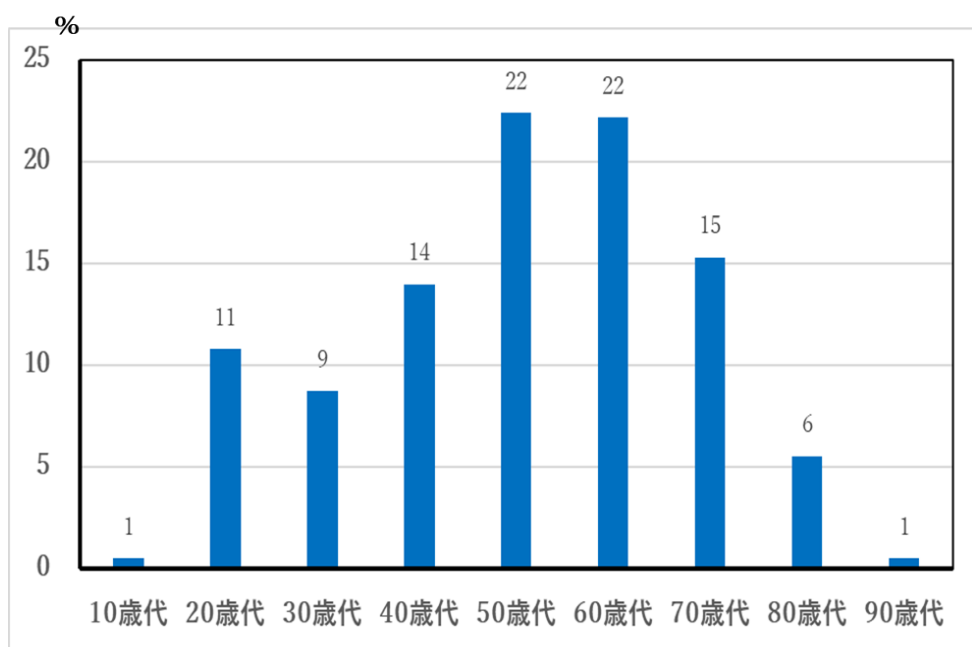


図4 年代別検査陽性者割合

3-2. 入院患者

入院の受入れを開始した2021年5月7日から2023年4月30日まで（2年間）に118名の患者を受け入れた。前報、即ち2021年5月7日から2022年3月31日まで（11カ月）は66名の患者数であった。2022年4月1日から2023年4月30日まで（13カ月）に52人が入院し、合計118名の患者を受け入れた。その推移を表3及び図5に示し表4に患者背景を示した。時期は第4波から第8波にかけての期間にあたり、前報では第6波の途中迄で今回の調査は第7波から第8波が中心であった。全期間中では第6波、第7波において入院患者が多かった。

表3 入院患者の推移

	期間	患者数	患者数/月
第4波	2021/3/1～6/20	3	0.8
第5波	6/21～12/16	30	5.1
第6波	2021/12/17～2022/6/30	45	7.0
第7波	2022/7/1～9/29	21	7.1
第8波	2022/9/30～2023/4.30	19	2.7

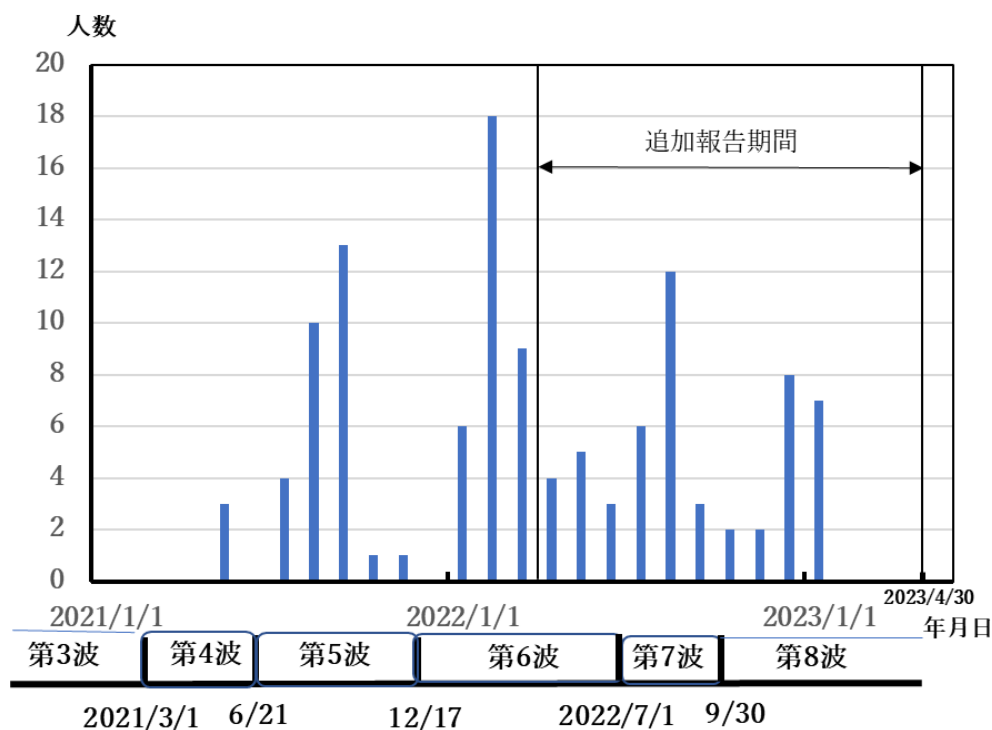


図5 入院患者数の推移

表4 入院患者背景

		患者数	割合（％）		
患者総数		118			
性別	男性/女性	82/36	69.5/30.5		
年齢	20歳代	8	6.8	平均値：	65.6歳
	30歳代	7	5.9		
	40歳代	5	4.2	中央値：	67.7歳
	50歳代	20	16.9		(23歳～93歳)
	60歳代	22	18.6		
	70歳代	23	19.5		
	80歳代	27	22.9		
	90歳代	6	5.1		
居住地	あいりん地域	51	43.2		
	西成区（あいりん地域以外）	22	18.6		
	大阪市他区	38	32.2		
	大阪府下	5	4.2		
	他府県	2	1.7		

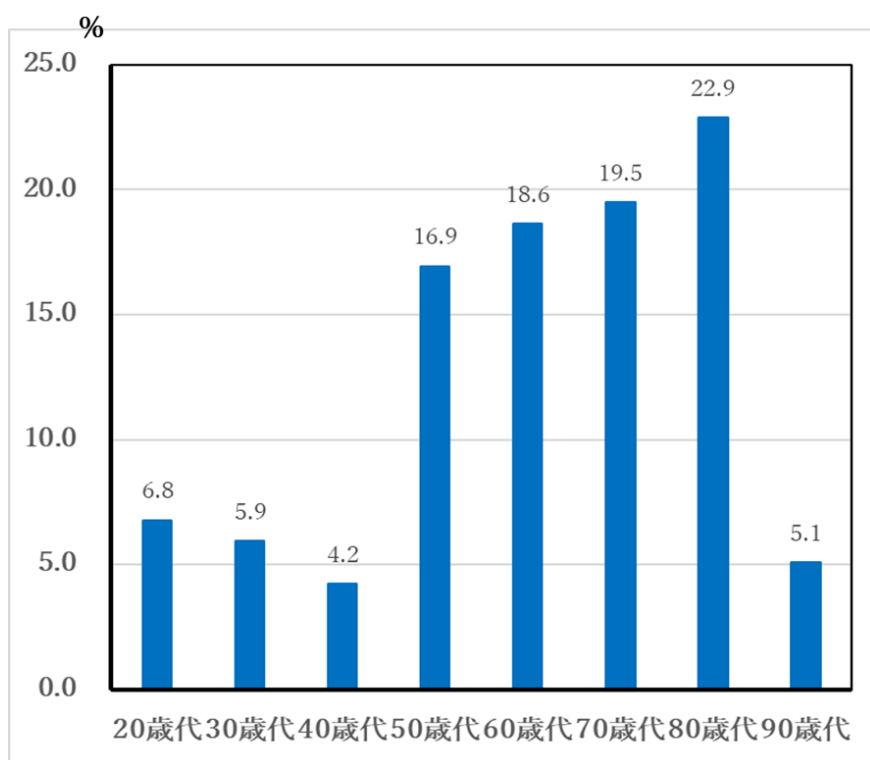


図 6 年代別入院患者数

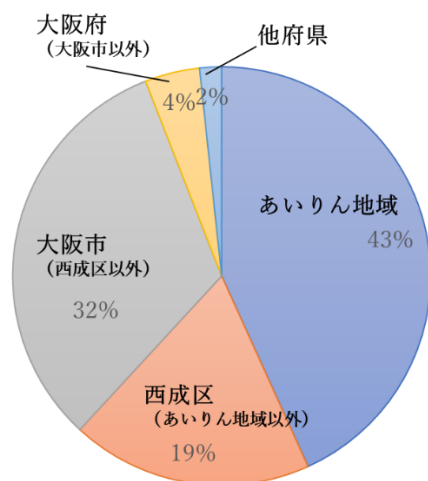


図 7 居住地別患者数

入院患者の年齢平均値は 65.6 歳、年齢中央値は 67.7 歳で範囲は 23 歳～93 歳であった（表 3、図 6）。80 歳代が 27 人（22.9%）と最も多く、以下 70 歳代（19.5%）、60 歳代（18.6%）、50 歳代（16.9%）と続いた。居住地ではあいりん地域が 51 人（43.2%）で最も多く、あいりん地域以外の西成区で 22 人（18.6%）で西成区全体 73 人（61.8%）で

あった。西成区以外も 45 人（38.1%）と比較的多く、通常診療では診ない地域からの患者の診療も行った。

重症化のリスク因子の一覧を表 5、図 8 に示した。何らかの重症化リスク因子を持つ患者が 102 人（86.4%）であった。因子では高齢 69 人（58.6%）、高血圧症 46 人（39.0%）が多かった。重症化リスク因子ではないが認知症については 34 人（28.8%）に認め、看護や介護の負担が大きかった。基礎疾患（表 6）では、高血圧症 46 人（26.0%）、慢性心臓病 35 人（19.8%）、糖尿病 18 人（10.2%）、慢性呼吸器疾患 17 人（9.6%）、慢性腎臓病 16 人（9.0%）、悪性腫瘍 15 人（8.5%）が多かった、一方、基礎疾患なしは 22 人（18.6%）であった。

表 5 重症化のリスク因子（複数因子あり）

項目	人数	割合（%）
高齢者(65歳以上)	69	58.5
高血圧症	46	39.0
悪性腫瘍	15	12.7
脳血管疾患	6	5.1
心血管疾患	35	29.7
糖尿病	18	15.3
喫煙歴あり	22	18.6
肥満(BMI 30以上)	13	11.0
慢性腎臓病	16	13.6
慢性呼吸器疾患	10	8.5
脂質異常症	7	5.9
何らかの重症化因子を有していた患者	102	86.4
重症化因子なし	16	13.6

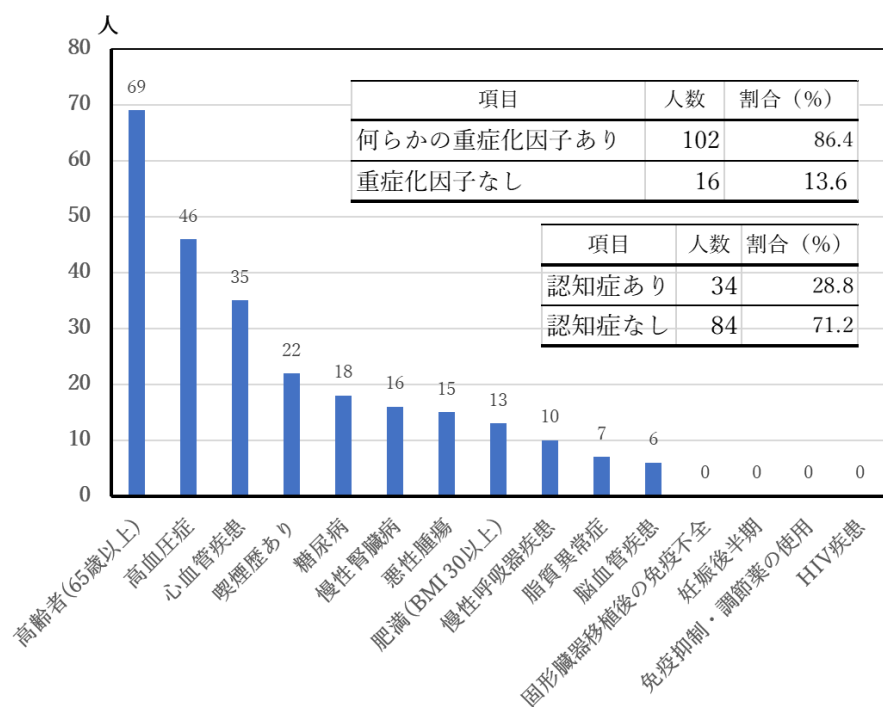


図8 重症化のリスク因子（複数因子あり）

表6 基礎疾患（複数疾患あり、重症化因子の疾患を含む）

項目	人数	割合 (%)
高血圧症	46	26.0
慢性心臓病	35	19.8
糖尿病	18	10.2
肥満(BMI 30以上)	12	6.8
慢性呼吸器疾患	17	9.6
慢性腎臓病	16	9.0
悪性腫瘍	15	8.5
脂質異常症	7	4.0
脳血管疾患	6	3.4
慢性肝臓病（肝硬変等）	3	1.7
重い精神疾患	2	1.1
何らかの基礎疾患を有していた患者	96	81.4
基礎疾患なし	22	18.6

次に、発症から入院までの期間を表 7 に示した。1～3 日が最も多く 48 人（40.7%）で、4～6 日が 31 人（26.3%）、当日が 19 人（16.1%）で平均 3.6 日であった。

表.7 発症から入院までの期間

期間	人数	割合（%）	項目	日数
0日（当日）	19	16.1	平均値	3.6
1～3日後	48	40.7	中央値	3
4～6日後	31	26.3	最小	0
7日以上	20	16.9	最大	14

入院時の酸素飽和度 SpO_2 を表 8 に、重症度別の患者数を表 9 に示した。入院患者の SpO_2 は軽症・中等症 I に当たる SpO_2 が 93%を超える者が 83 人（70.3%）で、93%以下は 35 人（29.7%）であった。重症度別では軽症が最も多く 58 人（49.2%）、中等症 I が 2 番目に多く 48 人（40.7%）であった。

表.8 入院時の酸素飽和度 SpO_2

範囲	人数	割合（%）
$93\% \leq \text{SpO}_2$	35	29.7
$93\% < \text{SpO}_2 < 96\%$	15	12.7
$\text{SpO}_2 \geq 96\%$	68	57.6

表.9 入院時の重症度

項目	人数	割合（%）
軽症	58	49.2
中等症 I	48	40.7
中等症 II	11	9.3
重症	1	0.8

治療薬の使用を表.10 に示した。軽症で経過観察のみの患者が 24 人（20.3%）あった。抗ウイルス薬としてはレムデシビルが最も多く 60 人（50.8%）に使用され、モルヌピラビルが 12 人（10.2%）に投与された。中和抗体薬では、ソトロビマブが 35 人（29.7%）、カシリビマブ／イムデビマブが 8 人（6.8%）に使用された。中等症で酸素投与が必要な

場合及び CT で肺炎像が認められた症例に免疫抑制・調節薬としてデキサメタゾンが 31 人（26.3%）に使用された。

表.10 治療薬の使用（複数使用を含む）

治療薬	人数	割合（%）
カシリビマブ／イムデビマブ （ロナプリーブ™）	8	6.8
ソトロビマブ（ゼビュディ®）	35	29.7
レムデシビル（ベクルリー®）	60	50.8
モルヌピラビル（ラゲブリオ®）	12	10.2
デキサメタゾン（デカドロン®）	31	26.3

入院後の隔離期間を表 11 に転帰を表 12 に示した。隔離期間は平均値で 10.4 日、中央値で 10.5 日（2 日～22 日）であった。隔離期間 2 日間の患者 3 名及び死亡 5 名の詳細は前報⁴⁾に報告した。

転帰を表 12 に示した。転院（重症）2 人、死亡 5 人については内容を前報に示し、今回追加報告分 52 人は全員軽快退院であった。

表.11 隔離期間

隔離期間	人数	割合（%）	項目	日数
10日 ≧	59	50.0	平均値	10.4
14日 ≧ 日数 > 10日	47	39.8	中央値	10.5
14日 <	12	10.2	最小	2
			最大	22

表.12 転帰

転帰	人数	割合（%）
軽快退院	111	94.1
転院（重症）	2	1.7
死亡	5	4.2

3-6. ワクチン接種件数

2021年4月から当院でワクチン接種事業を開始した。2023年4月までに5,460件の接種を行った（表13、図9）。月別の推移では2021年7月が1,033件で最も多く、その前後の月も多かった。接種者の分類では当院診療中患者が3,340件（61.2%）と最も多く、その次が病院職員、地域のクリニック、施設職員などが1,510件（27.7%）であった。シェルター（あいりん臨時夜間緊急避難所）利用者（312件、5.7%）及びホームレス（298件、5.5%）は大阪市福祉局からの要請があって行った（図10）。

表13 当院における新型コロナウイルス感染症ワクチンの月別接種件数の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2021年				178	364	618	1033	505	154	0	113	103	3068
2022年	119	60	417	110	48	28	66	180	299	216	258	349	2150
2023年	195	24	16	7									242
合計													5460

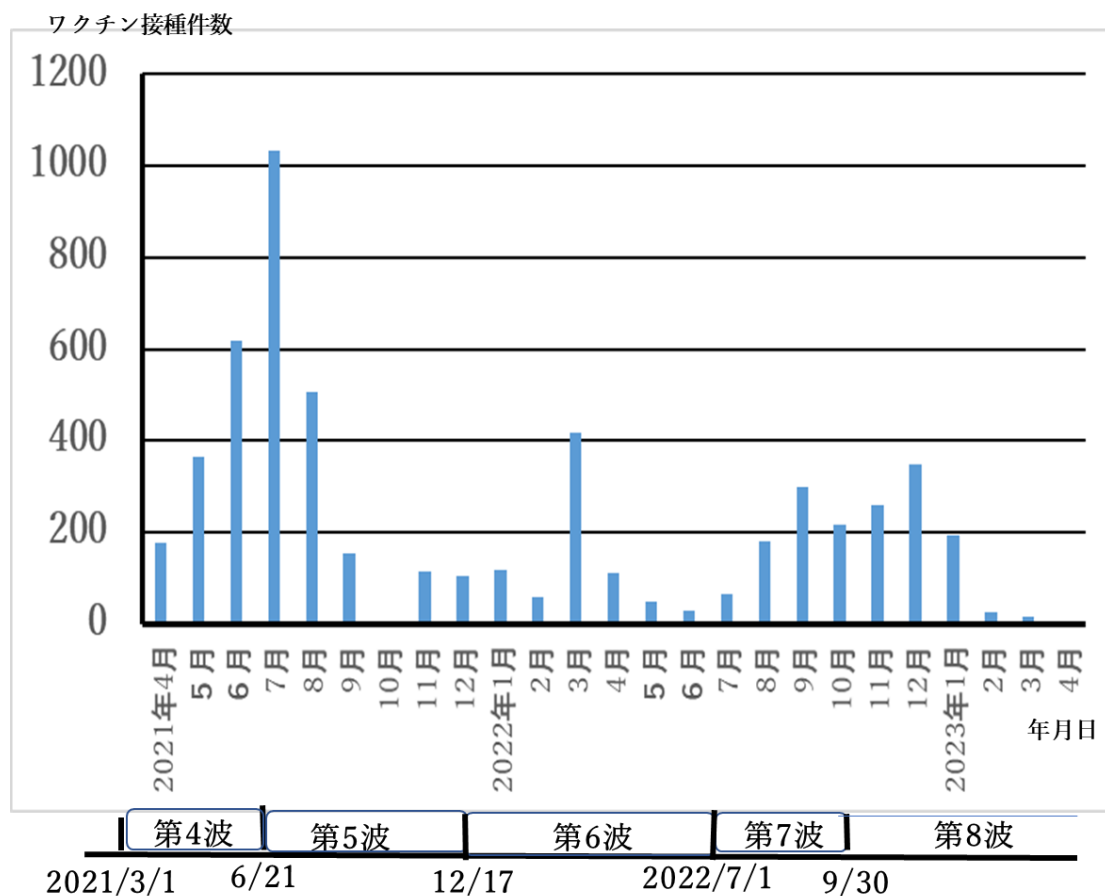


図 9 当院における新型コロナウイルス感染症ワクチンの月別接種件数の推移

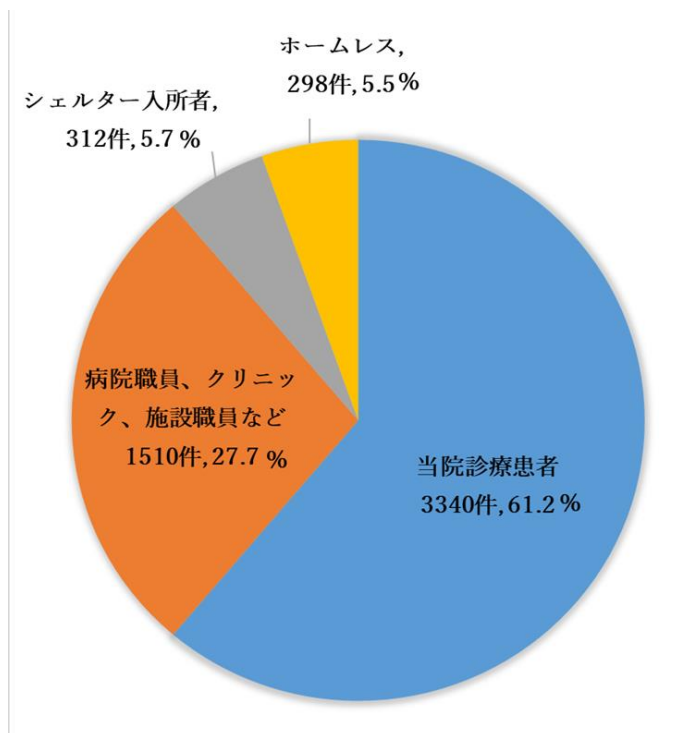


図 10 当院における新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種者別分類

3-7.病院職員の感染、濃厚接触者及び院内感染と休業状況

調査期間における当院職員の COVID-19 感染及び濃厚接触者について報告する。また、前報に引き続き院内感染の発生状況についても報告する。

院内ではないが自宅などにおいて COVID-19 を発症し入院あるいは自宅待機などを行った職員数の月別の推移を表 14 及び図 11 に示した。表 16 に示す通り延べ人数は医師 6 人、看護師 26 人、薬剤師 5 人、検査技師 2 人、その他 10 人になった。時期は図 11 に示す通り第 7 波、8 波の時期が多かった。また、家族の感染者などによる濃厚接触者の推移を表 15 及び図 11 に示した。職種別には表 17 に示したが、延べ 30 人が自宅待機などになった。このような COVID-19 感染による延べの休業日数を表 18 に示したが、医師 56 日、看護師 272 日、薬剤師 48 日、検査技師 21 日、その他 110 日で合計 507 日になった。濃厚接触に伴う休業日数は表 19 に示したが合計 213 日になった。濃厚接触も第 7 波、8 波の時期に多かった。

院内感染の発生状況を表 20 に示した。入院患者間の感染については、前回報告した 2022 年 3 月 11 日（前回 14 日と報告したが 11 日が正しい）から 15 日にかけて 3 名の患者に院内感染が発症した。第 1 例目は 3 月 9 日に入院した。その際の検査では SARS-CoV-2 は陰性であったが入院 2 日目 3 月 11 日に 38.5℃の発熱を認めコロナの検査を行い陽性

となった。その後、3月14日、15日に同室者に発熱者が2名発生した。また病棟に関連する医師、看護師、看護助手等職員全員の SARS- CoV- 2 の検査を実施したが、職員に感染は認められず患者間の感染による院内感染と考えた。第2回目の院内感染は2022年12月18日から12月23日にかけて起こった。第1例目の患者は12月18日に38.2℃の発熱を認め検査で陽性であった。患者は9月12日入院で外出はなく感染源は不明であった。12月21日同室者に37.9℃の発熱を認め発症、また、12月20日及び12月22日に別部屋の患者に COVID-19 が発症した。12月22日及び23日に職員に対し SARS-CoV2 の検査を行ったところ看護師に3名の陽性者が出た。感染源は不明であったが第1例目の発症後、患者間あるいは職員を通して感染が広がったと考えた。7名の感染者で当院では初めてのクラスターとなった。

表 14 当院職員における新型コロナウイルス感染者数の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年				0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
2021年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2022年	1	3	1	2	2	3	6	12	2	3	2	11	48
2023年	0	0	0	0									0
合計													49

表 15 当院職員における新型コロナウイルス感染症濃厚接触者数の推移

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2020年				0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2021年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
2022年	0	1	0	2	1	0	7	4	2	1	4	4	26
2023年	1	1	0	0									2
合計													30

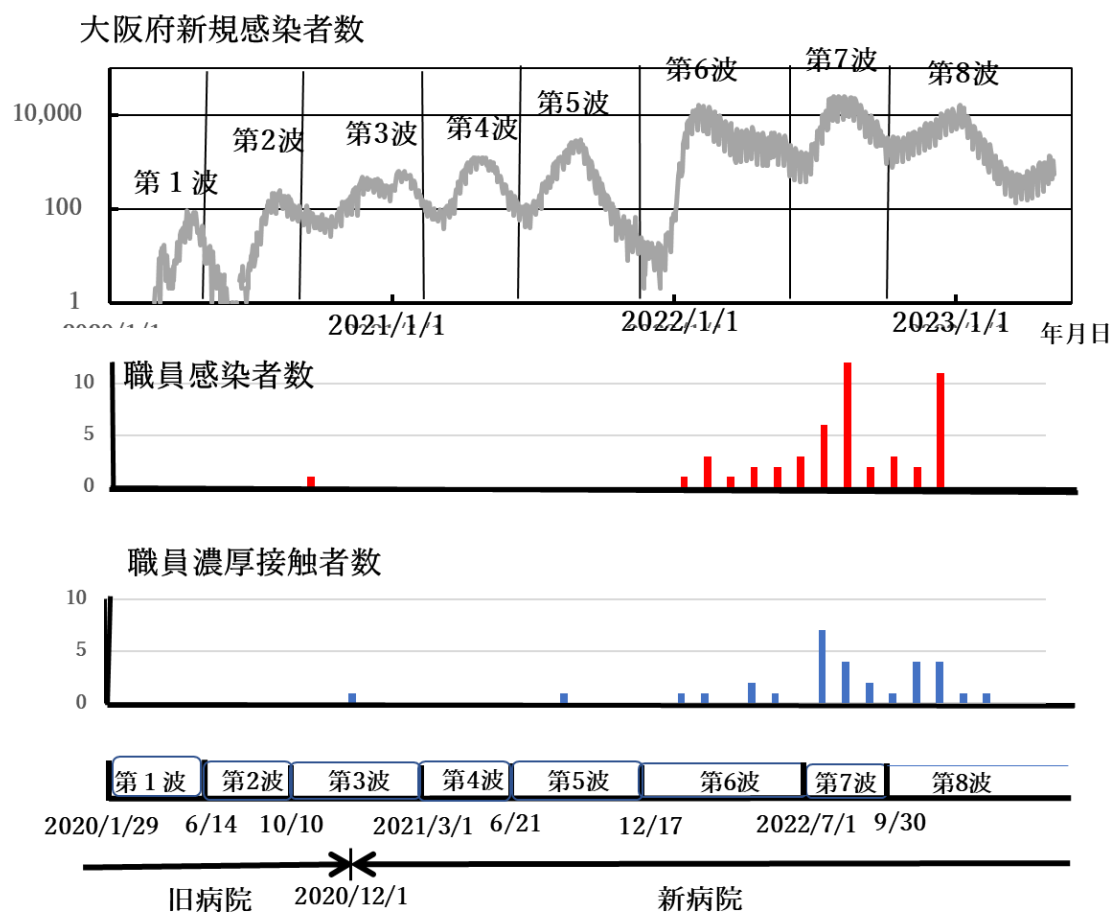


図 11 当院職員の新型コロナウイルス感染者数及び濃厚接触者数の推移

表 16 職員の新型コロナウイルス感染症患者数

医師	6
看護師/看護助手	26
薬剤師	5
臨床検査技師	2
事務職員他	10
合計	49

表 17 職員の新型コロナウイルス感染症濃厚接触者数

医師	2
看護師/看護助手	17
薬剤師	2
臨床検査技師	3
事務職員他	6
合計	30

表 18 職員の新型コロナウイルス感染症患者の延休業日数

医師	56
看護師/看護助手	272
薬剤師	48
臨床検査技師	21
事務職員他	110
合計	507

表 19 職員の新型コロナウイルス感染症濃厚接触者の延休業日数

医師	11
看護師/看護助手	122
薬剤師	21
臨床検査技師	28
事務職員他	31
合計	213

表 20 院内感染の発生状況

発症日	2022 年 3 月 11日～15日	2022 年 12 月 18日～21日
入院患者	3	4
看護師	0	3
合計	3	7

4. 考察

社会医学研究 No.79 において当院における 2020 年 1 月から 2022 年 3 月までの COVID-19 に対する取り組みを報告した。わが国及び世界的にも COVID-19 は本年 5 月をもって集中的な取り組みは一旦終了した。当院においても本年 2023 年 2 月以降、4 月末までは COVID-19 の入院患者はなく、検査件数についても 2023 年 1 月：20/135（陽性件数/検査件数）、2 月：1/86、3 月：1/66、4 月：0/79 と明らかに COVID-19 の発症は減少している。前回の報告は昨年 2022 年 3 月 31 日までのもので第 6 波が収束に向かう段階で、2022 年 7 月 1 日から第 7 波、9 月 30 日から第 8 波が起こり、今回、その期間の病院での取り組みを追加し、さらにワクチン接種及び病院職員の感染など当院における COVID-19 全経過を報告した。

検査件数は追加期間 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 30 日の 13 カ月間の間に 1519 件（合計 2973 件）で陽性者は 256 件追加となり合計 453 件になった。追加期間の入院患者数は 52 人で合計 118 人になった。全体の年齢構成は明らかに変化し、80 歳代、70 歳代、60 歳代が増加し、全期間を通じて 80 歳代（27 人、22.9%）が最も多くなった。今回の追加調査期間（2022 年 4 月～2023 年 4 月）において、80 歳代、70 歳代、60 歳代、90 歳以上の増加が多く、それぞれ、16 人、15 人、9 人、4 人の増加を認めた。即ち、第 7 波、第 8 波の入院患者は明らかに 80 歳代を中心とする高齢の患者が多かった。年代別の入院患者の比較のデータは見つけられなかったが、日本全体の死亡例や重症者の年代をみると死亡例では男女とも 80 歳代が多く重症例では男女とも 70 歳代が多かった⁵⁾（図 12、図 13）。

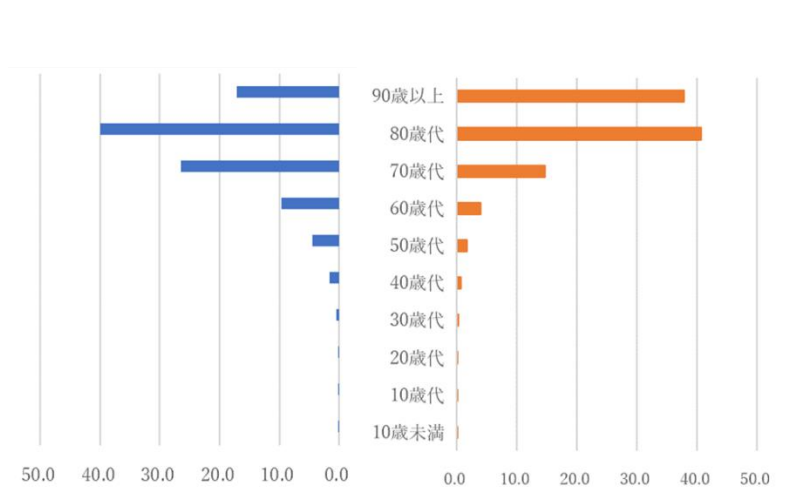


図 12 日本国内の性別・年代別死亡者数（累積）（2023 年 4 月 25 日）

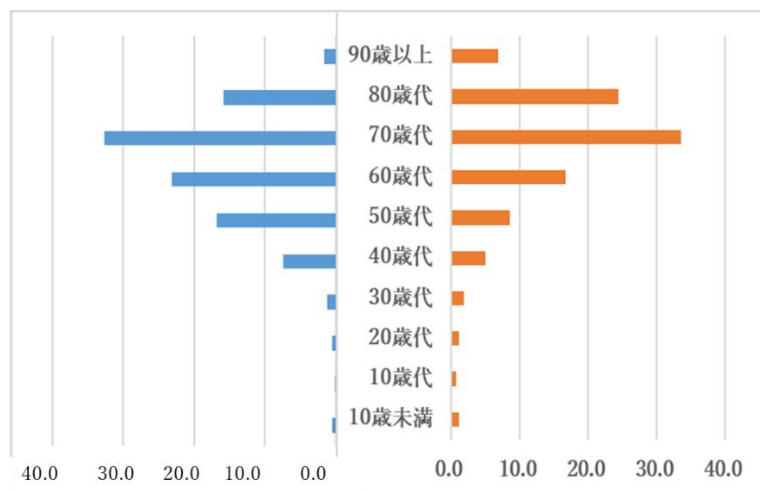


図 13 日本国内の性別・年代別重症者数（累積）（2023 年 4 月 25 日）

当院の COVID-19 の入院患者の年齢構成も全国の傾向と同じであった。地域別では前報と大差なく、あいりん地域が 43 % で最も多かったが通常の入院患者ではあまり見られない西成区以外の大阪市や府下や他府県も見られた。これは患者紹介が府のフォローアップセンターによったためである。入院患者の受け入れについては前報で考察した⁴⁾ように当院は十分に対応できなかった。人員確保を中心に病院の感染症に対する体制整備が必要である。

ワクチン接種は当院診療患者を中心に 5460 件の接種を行った。大阪市福祉局からの要請でシェルター入所者やホームレスに対する接種も合わせて 610 件（11.1%）の接種も行った。期間は少し異なるが 2023 年 8 月 23 日までの大阪市ワクチン接種者数（1 回でも接種を受けた人数）は 2,024,767 人であった⁶⁾。大阪市の 2022 年の推計人口は 2,756,807 人⁷⁾で接種率 73.4%であった。あいりん地域の推定人口は 20,200 人で接種率が大阪市全体と同一とすると $20,200 \times 0.734 = 14,827$ 人が接種を受けたことになり、当院の貢献度は $5460 / 14827$ で 36.8%になった。ワクチン接種についての当センターの貢献度は余り高くなかった。

職員の感染については院内感染を中心に日本全体で大きな問題になった。院内の感染者は延べ 49 人、濃厚接触者は 30 人で院内感染は 2 件発生し 1 件が 7 人の感染者を出しクラスターとなった。また、これらによる職員の欠勤日数は感染及び濃厚接触者を合わせ 720 日になった。しかし、入院の停止や外来の封鎖には至らず通常の病院機能を果たすことができた。これは前報でも考察したが、地域が結核の高蔓延地域であり、その対策について看護部や臨床検査室を中心に病院全体で熱心に取り組み修練を重ねてきた効果が現われたものと考ええる。

5. 結語

今回、新たに 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 4 月 30 日までの期間の COVID-19 に関する調査を追加し、前回報告分と合わせて 2020 年 1 月以降 2023 年 4 月までに当院で診療を行った COVID-19 の全体像を報告した。453 人の感染の診断と 118 人の入院患者に対する治療を行った。また、2 件の院内感染と 1 件のクラスターを起こした。一定数の職員の感染者や濃厚接触者も認めたが、この間、病院の機能を止めることなく通常の診療に加え COVID-19 に対する診療を継続することができた。しかし、この間の悲惨なコロナ禍に対しあいりん地域に対して十分な貢献ができたとは言えない。将来の新たな感染症に対しあいりん地域の住民への対応が十分にできるように体制を整備していく必要がある。

文献

- 1) WHO Coronavirus (COVID-19) Dashboard, 29 July 2023
- 2) データからわかるー新型コロナウイルス感染症情報、厚生労働省
<https://covid19.mhlw.go.jp/>
- 3) 大阪府 府内の最新感染動向 <https://covid19-osaka.info/>
- 4) 大阪社会医療センター附属病院における新型コロナウイルス感染症の記録、大阪社会医療センター社会医学研究 No.79
https://osmc.or.jp/disclosure/social_medicine_research/
- 5) 「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 8.1 版」（厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
- 6) 大阪府ワクチン接種状況等について
<https://www.pref.osaka.lg.jp/kansensho/vaccine/jisseki.html>
- 7) 大阪市の推計人口年報
<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000203035.html>